



南 雲 正

観光、文化の振興、 働く場確保対策を問う

今年の湯沢冬季観光への 新たな取り組みは

質問

スキー発祥100年をテーマに積極的なキャンペーンが展開されているが、町内ではスキー場の休業、不安定要素を含んだ経営等出始め、スキー観光の低迷状況が続くことが予想される。スキー観光活性化の新たな取り組みとして提言してきた、歩くスキー、スノーシュー、雪遊び等の雪国体験メニューへの取り組み状況を伺う。

町長答弁

石川遼選手のカロカン合宿で使った旭原のゴルフ場特設コースを常設とし、ジュニア、中学校の部活、体育授業、小学校の親善大会に使用する。歩くスキー、スノーシュー等の雪遊びは各スキー場で取り組んでいる。県の副知事からスノーモービルランドを整備すれば香港からの誘客を全部湯沢に回すという話があり、

スキー場に協力をお願いしている。

質問

250万円をかけるゴルフ場の特設コースはアクセスも悪く、子供達の練習、大会等に常時活用できるか疑問である。「体験工房大源太」の施設、駐車場を活用し周辺に常設コースを整備すれば一般の観光客も利用でき、経費も半分以上で済み、地域の活性化に繋がるのではないか。

町長答弁

授業、練習の内容は、良く聞いていないので直接答えられない。子供達が近くで練習できる場所を小中学校の統合施設建設の中で検討し進めたい。

来年の群馬デスティネーション キャンペーン対策は

質問

今年の全国JR6社による、「長

一般

質

問

る現状から、活用できる予算は充分にあるはずである。歴代の大賞受賞者の招待、作品集に受賞作品コーナー等の記念事業を企画し、湯沢から発信する童画文化の醸成、発展への布石にできないか。

町長答弁

町内の個人が所有している川上四郎作品の展示、複製画の展示、審査員の鑑賞会を企画し、担当部署で動いている。

童画美術館の拠点施設を 駅東側に

質問

童画美術館建設が町長の公約であり、諮問を受けた童画のまちづくり委員会の答申も駅東側に童画の拠点施設の設置であったにも係わらず、9月議会では美術館建設基金を使って歴史民族資料館を改修して童画の拠点施設とする方針が示された。駅東側に「童画美術館」を建設し、駅西側の雪国館「川端康成と雪国の世界」を充実させ、観光客が駅から外に出て湯沢の風を感じてもらえるシステムをつくり、歴史文化を提供でき満喫できる町こそ、観光振興の鍵にもなる。駅東側に核となる童画美術館を建設することで、通りにはモニメントや地域の人たちの作品発表の場も生

まれ新たなビジネスチャンスに繋がることとなると思うが町長の考えを伺いたい。

町長答弁

文化拠点「雪国館」を有効活用することが、町全体の活性化に寄与するものと考えているが、いろいろな意見を聞き検討した中で約変するかも知れない。

若者の働く場確保のための 企業誘致の進捗状況は

質問

社会問題となった次代を担う若者の雇用創出に近隣自治体が積極的に取り組む中、6月に「企業誘致支援制度」をつくり、取り組みを始めたということであったが、動きが見えてこない、取り組み状況を伺いたい。

町長答弁

企業立地促進法に基づき南魚沼市と商工会事務局長を委員として「南魚地域産業活性化基本計画」を策定中である。私は口が重いので話さないだけで関西方面にも企業誘致に行っている。

第15回童画展の記念事業は

質問

日本童画の父「川上四郎展」から17年、全国童画展が15回目を迎える。毎年、公民館費の不要額を10%、600万円近く出してい